在宅と施設の垣根を越えて

福祉用具レンタル　カラーズ

アンケートでは、介護施設の入居者も身体に合った車いすを利用できるよう、介護施設向けに独自のレンタルサービスを行っている福祉用具事業者が少なくないことも分かった。福祉用具のメリットを最もよく理解しているのはやはり福祉用具事業者。地域の施設にも目を向け、在宅と施設の垣根を越えて力を合わせれば、地域で暮らす全ての人にとっての安心にもつながるはずだ。

左からカラーズ福祉用具事業部の鈴木さん、沼田さん、代永さん

施設にもプロのレンタルサービス
施設経営者の意識変え地域に安心を

「自宅で暮らしていた時は、身体状況はもちろん住まいの環境や生活スタイルなども踏まえながら、その人に一番最適な福祉用具を使ってもらうことができていたのに、施設に入った途端みんな同じ車いすに座らせられてしまう。福祉用具レンタルを始めた時から矛盾を感じていました」

東京都大田区で、地域の要介護高齢者や障害のある人のために、各種在宅支援サービスを展開しているカラーズ（田尻久美子代表取締役社長）。同社が訪問介護や居宅介護支援と同じように、在宅支援の要と位置付けているのが8年前に立ち上げた福祉用具レンタル事業だ。

その福祉用具事業部は現在6人体制。管理責任者を務める鈴木健介さんは、今回の本紙のアンケート企画にいち早く賛同してくれた一人だ。実際にレンタル事業を開始してから地域の介護施設にも保険外で独自に福祉用具を提供し続けている。

施設向けレンタルは、大きく分けて入居者本人と契約する形と施設（法人）と契約する形で行っているという。

「利用料を個人で負担するか施設で負担するかの違いですが、どちらにしてもアセスメントから始まり、デモ機でフィッティングし、レンタルが始まってからも定期的にモニタリングとメンテナンスをしています。貸し出す用具の種類も車いすに限らず、歩行器やリフト、手すりなど在宅の利用者とほとんど変わりません」（鈴木さん）

アンケートでも多くの人が指摘していたように、1人ひとりに合った福祉用具を提供することの重要性に対する施設経営者の意識は残念ながら低い。利用者が自己負担で購入すればいいと考えているトップや行政も多いだろう。だが、在宅と同じように、福祉用具のプロである専門相談員が施設の現場に入り、一連のプロセスと効果を実際に見てもらうことが施設の意識を変えるきっかけになると、カラーズでは考えている。

「最初はお金はかけられない、中古品の車いすを購入すればいいと思っていた施設長が、レンタルだからこそさまざまな変化に合わせてきめ細かく変えられ、利用者の自立にも経費的にもメリットが大きいと分かりレンタルにしたところもありました。車いすだけでなく、備え付けだった手すりも個々の利用者の動線に合わせて付け替えようという気にもなってくれたのです」

施設レンタルでも1人ひとりに合わせて車いすを調整。職員向けの研修も行う

作業療法士の代永裕樹さんがそう話す。メーカーと共同で施設の介護スタッフへの研修を行うこともあるという。施設レンタルの費用は制度の仕組みから考えて在宅の利用者と全く同じというわけにはいかず、カラーズではおおよそ介護保険価格の2～3割引きで契約しているが、専門職としての仕事をきちんと見せていくことが信頼と納得につながると実感しているという。

「施設に理解がないからと決めつけて何のアプローチもしなければ、何も変わりません。私たち福祉用具事業者も地域の中で施設との関係性にもっと目を向けるべきだと思います。施設の現場には、合わない車いすを使っている高齢者の姿に心を痛めている介護職やPT、OTなどもいる。そうした人たちとつながることも第一歩になるのではないでしょうか」（鈴木さん）

カラーズの地元大田区には福祉用具事業者が任意で参加している事業者連絡会がある。地域の中で競合よりも共存を目指し、中学校などに出向いて車いすの体験会を開いたり、シーティング研修会などさまざまな活動を行ってきた。今後はそうした場も活用して、事業者が力を合わせて施設経営者に福祉用具レンタルを理解してもらう取り組みも考えていきたいという。

さらにこの春から新たな事業もスタートさせた。地域で暮らす障害のある人への福祉用具に関する相談とレンタルサービスだ。

「障害の方は福祉用具は本人の申請に基づいて行政が支給決定するので、貸与のような柔軟な仕組みがありません。知的障害や精神障害の人が地域で暮らす時、住まいの環境づくりや自分に合った福祉用具について相談するところもないのです。介護保険の福祉用具レンタル事業者として、持っている人材やノウハウを地域の障害者のために使いたいと思いました」（作業療法士・沼田一恵さん）

こうした障害分野の福祉用具の課題も、施設の車いすレンタル問題と根っこはつながっている。1つのアンケートから見えてきた様々な矛盾や課題に、シルバー新報は真摯に向き合っていきたい。

シルバー新報 オンライン展開催中

お問い合わせ
シルバー新報 クロスメディア担当
電話 03-3359-5372

iSEED
Seed Makes Future
iSEED
見守りシステム
パルモスマートコール

アイルリンク
歩行器
アイルウォーク Light

ケアコム
ケアコム
見守りシステム
トイレ離座検知システム

ケアコム
ケアコム
見守りシステム
見守りスマートフォン連動ソリューション

JT-senior
JT-senior
5点支持ステッキ
つえたった

竹中エンジニアリング
見守りシステム
サーバー内蔵予測型見守りセンサー

株式会社タマツ
タマツ
手すり
まえてあ

NCC
日本コンピュータコンサルタント
介護ソフト
介舟ファミリー

PARAMOUNT BED
パラマウントベッド
エアマット
ここちあ利楽

PARAMOUNT BED
パラマウントベッド
見守りシステム
眠り SCAN

PARAMOUNT BED
パラマウントベッド
介護ベッド
楽匠プラス

wiseman
ワイズマン
介護ソフト
すぐろく Tablet

wiseman
ワイズマン
介護ソフト
MeLL+

動画でわかりやすく説明。
ぜひ視聴ください！
QR から
アクセス